

CONCERT

2月~3月

コンサート、イベントから

EVENT

News 奇跡のホルン奏者クリーザーが間もなく初来日

デビューアルバム「夢想」で14年エコー・クラシック賞最優秀新人賞を受賞した、「両腕のないホルン奏者」フェリックス・クリーザーが満を持して6月に初来日する。訪日前後に組まれている、モナ=飛鳥・オット (p)、セルゲ・ツインマーマン (vn) とのトリオ・コンサートのツアー中、シュトゥットガルトでの公演前に宿泊先のホテルを訪ねた。

彼のホルンには呼吸の絶対的な安定感があり、それが彼特有の落ち着きのあるレガートを生む。片足にしか重心を置けない姿勢でどのように実現させるのだろうか。

「上半身を真っ直ぐに保つように座れば、片足を上げた状態でも横隔膜を支えるのに支障はきたしません。それよりも大切なのは自由な呼吸です。あくびのように脱力して、喉が硬くならないように意識しています。ホルンは色彩の選択肢が多く、頭で命令した響きを実現させることができる楽器なので、毎日4~5時間楽器に触れ、音を比較しながら最適な色合いを選ぶようにしています。繊細で上品な響きを目指しており、警笛のような音はNGです」

最年少(13歳)でハノーファー音楽大学で学び出した時から、日本人学生と多くかかわってきたので、「アジアの中のドイツ」のような日本に行けるのを楽しみにしているようだ。「演奏家になって、大勢の人とかかわる仕事に就けたのが嬉しい」と語る彼は、「音楽を通して喜びを伝え、聴衆の頭を空にできるオアシスになりたい」と、特注のベンツを“足で”運転して旅を続けている。(中東生)



両腕がないため、足の指でバルブを操りホルンを吹くクリーザーは世界を驚かせた